

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、志を持ち、夢や希望を追求し真に生きる力を持った生徒を育む学校をめざす

- (1) 進路を自己決定できる力と進路を実現できる学力を身につけ、自分の人生を切り拓く力を持った生徒を育てる
- (2) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表明できる生徒を育てる
- (3) 校訓である「自他敬愛」の心を育むと共に、自律的な生徒を育てる
- (4) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、リーダーシップを発揮できる生徒を育てる
- (5) これからの国際社会で通用する人材として、伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重することができる生徒を育てる

## 2 中期的目標

## 1 学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成

- (1) 特色ある教育課程を編成し、生徒の学習意欲を向上
  - ア 将来の仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会に貢献出来る人材を育成する。
    - ※ 「看護医療」専門コースの生徒に対して、看護師体験及び保育体験などの体験学習を実施する。
  - イ 進路行事を積極的に展開し、進路に関する意識向上と日々の学習意欲向上をめざす。
    - ※ 学校教育自己診断における「進路行事が進路決定に役立つ」肯定率（H26年度59%、H27年度71%、H28年度69%）を平成31年度には75%を達成する。
  - ウ 学校における教育活動のあらゆる面で、生徒の言語活動の充実を図る。
    - ※ ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。
    - ※ 学校教育自己診断における「ICT機器活用の取り組み」肯定率（H26年度69%、H27年度86%、H28年度84%）を平成31年度には90%を達成する。
  - エ 使える英語プロジェクトにおける実践をもとに、英語におけるコミュニケーション能力を向上させる。
    - ※ 「読み・書き・聴く・話す」の4領域の中でも、早い段階から、スピーキングの学習に、NETの活用を推進する。
- (2) 生徒が「わかる授業」として、満足度の高い「充実した授業」に向けた授業改善
  - ア 学校教育自己診断や生徒の授業アンケートを参考にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。
  - イ 授業の「めあて」と「振り返り」を全教科で実施するとともに、校内外の優れた実践事例の研修を通じ、指導法を研究し、共有を行う。
  - ウ 公開研究授業の実施を推進する。
    - ※ 学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」肯定率（H26年度49%、H27年度58%、H28年度57%）を平成31年度には60%を達成する。
- (3) 個別指導の充実と自己学習の支援
  - ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
  - イ 進学を意識した講習を実施し、自学自習のための支援体制を整備する。
  - ウ 外部模試利用の効果的な活用を推進する。
    - ※ 学校教育自己診断における「進路決定の際の情報提供」肯定率（H26年度78%、H27年度82%、H28年度78%）を平成31年度には85%を達成する。

## 2 自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成

- (1) 規範意識の向上（善悪の判断ができる人材及び感謝報恩の心をもった人材を育成）
  - ア 毎朝の立ち番指導及び通学指導を継続し、通学マナーの向上を図る。
  - イ 毎朝の立ち番指導に合わせてあいさつ運動を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。
  - ウ 頭髪・服装・遅刻指導を推進する。
  - エ 急速に普及しているスマートフォンなどのSNS上の人権侵害防止についての取り組みを推進する。
    - ※ 学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」肯定率（H26年度75%、H27年度77%、H28年度81%）を平成31年度には85%を達成する。
- (2) 自主的活動ができる生徒集団の育成
  - ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動を一層活性化させる。
    - ※ 部活動加入率（H26年度52%、H27年度47%、H27年度57%）を平成31年度には60%を達成する。
  - イ 「学校まるごと美術館」構想の下、生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。
  - ウ 図書館利用・読書活動の充実を推進する。
  - エ 生徒による校内外の美化活動を推進する。
    - ※ 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援していく。

## 3 ICT機器の活用

- (1) ICT機器を活用して校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保
  - ア ICT教育推進室の設置（新分掌として位置づけ）
  - イ 校務支援システムのサポート、HP更新（ブログ更新）のサポート、各種トラブルの対応、機器の管理。
- (2) ICT機器を活用した授業の実施を推進
  - ア タブレット型PCや電子黒板機能付き短焦点プロジェクターを活用する。
  - イ 全ての教科で手軽にICT機器を利用した授業ができる環境の整備と教職員の能力向上を図る。
    - ※ 「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレットの活用を推進する。
- (3) 「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価」（パナソニック教育財団特別研究指定校）に続く「評価方法」の調査研究を行う。
  - ア 一人一台のタブレット端末（生徒所有のスマホも含む）を活用し、多様な学習成果の評価手法に関する調査研究を行う。
  - イ 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

## 4 信頼される学校づくり

- (1) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校
  - ア 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取り組みをアピールする。
  - イ ブログを活用して、最新の学校情報を発信する。
  - ウ 学校メールマガジン（モズマガ）の利用拡大を図る。
    - ※ 教育自己診断による「ホームページは充実している」肯定率（H26年度79%、H27年度82%、H28年度76%）を平成31年度には85%を達成する。
    - ※ 教育自己診断による「メールマガジンは役に立っている」肯定率（H26年度93%、H27年度91%、H28年度88%）を平成31年度には90%以上を維持する。
- (2) 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校
  - ア 「子育てひろば、東もず」との連携を一層進める。
  - イ 堺市、地域自治会、地域小学校・中学校・大学との連携を進める。
    - ※ フューチャールームを活用して地域との交流を進め、文化発信の場となる。

## 5 伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重する精神の育成。＜「サカイ」から「セカイ」へ＞

- (1) 「自他敬愛（自らに誇りをもち、自らを大切に。他者を尊重し、他者を思いやる）」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
  - ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築くことで、より「自他敬愛」の精神を育てる。
  - イ 「ピア・サポート」活動を一層、拡大充実させる。
- (2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点を持つ。
  - ア ICT機器を活用した問題解決能力育成の取り組みを推進する。
  - イ アクティブ・ラーニングの評価方法について、「e-Portfolio」等を導入し検討する。
- (3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方について、提言をまとめ、アジア諸国へ発信していく。
  - ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進する。
  - イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施する
    - ※ いかなる時も「出来ない理由」を考えるのではなく、「出来る方法」を考えて道を切り拓き、世の中に新しい価値を生み出せる人材の育成。
    - ※ 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行う。
    - ※ 学校教育自己診断による「この学校は特色がある」肯定率（H26年度55%、H27年度64%、H28年度68%）を平成31年度には70%を達成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT をツールに、授業の「めあて」と「振り返り」を提示し、生徒の活動場面（グループワーク等の共同学習など）を取入れるアクティブ・ラーニング型の授業を推進している。</li> <li>教員の授業での ICT 活用率 96% (H28:95%)、生徒の ICT 活用取り組みの肯定率 90% (H28:84%)、保護者の ICT 活用取り組みの肯定率 87% (H28:83%) はそれぞれ高く、「めあて、振り返りを取入れた授業（アクティブ・ラーニングの要素を取入れた授業）」の教員の取組み率は 86% (H28 ; 78%)、「少人数指導を取入れるなど（グループワーク等）指導方法の工夫・改善に努めている」の肯定的評価は 73% (H28 ; 63%) と比較的高い水準にあるが、生徒の「授業内容がわかりやすく工夫している」の肯定的評価は 62% (H28 ; 57%)、保護者のそれは 56% (H28 ; 49%) と、授業の満足度には課題が残っている。来年度は、新設する「学習指導室」を中心に「わかる授業」に向けての授業改善に取り組む。</li> <li>生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための学力を育てる学校をめざしてきたが、3 年生の「今チャレンジしている進路は第一希望である」の肯定率は 90%であった。3 年間を見通した学習指導及び進路指導計画の構築を進め、さらに、生徒が高い志をもって第一希望の進路を実現できる学校にしていきたい。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は生活規律や学習環境などの指導に力を入れている」の肯定的評価は、生徒 86% (H28 ; 81%)、保護者 83% (H28 ; 82%) と、教職員との信頼関係にもとづいた教育活動ができています。</li> <li>学校行事に対する肯定的評価は、生徒 84% (H28 ; 80%)、保護者 87% (H28 ; 85%) と、教科外教育活動について高い評価を得ている。</li> <li>他方、「学校に行くのが楽しい」の肯定的評価は、生徒 78% (H28 ; 771%)、保護者 77% (H28 ; 77%) と改善の余地があり、取組内容の質を高めていくように努めていく。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」の肯定的評価 85% (H28 ; 85%) と教職員から高い評価を受ける一方、「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取組める環境にある」の肯定的評価 61% (H28 ; 49%)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定的評価 67% (H28 ; 47%) に対しては、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担の在り方を研究することにより解決を図る。</li> <li>保護者の「ホームページは充実している」の肯定的評価が 76% (H28 ; 76%) であることに対して、昨年度までに引き続き「校長ブログ」の日々更新で改善を図っているところである。</li> <li>保護者の「メールマガジンは役に立っている」の肯定的評価が 87% (H28 ; 88%) であり、引き続き適切な情報提供に努める。</li> </ul> <p>※平成 30 年度に、委員会再編にともない「学習指導室」「トータルプラン推進室」を設置。個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行い改善を図る。</p>	<p><b>【第 1 回 (6/19)】平成 29 年度学校経営計画について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育産業のクラウドサービス導入については、子どもの学習状態が保護者にも見える利点を評価されている保護者や、「学習のきっかけ」としての期待感をお持ちの保護者が多くおられます。今後全学年に取り入れる方向で検討をされてはいかがでしょうか。また、子ども同士の SNS 等のトラブル解消の仕方について情報科だけでなく学校全体として指導をさらに進めてください。</li> <li>教育産業のクラウドサービス上手く活用されています。生徒の個人データが悪用されないよう、データ管理の視点も持ちつつ、生徒の第一志望の進路実現に向けての動機付けや授業への興味関心と同時に、コース制での的を絞った学習により、得点力を上げることへの ICT 活用をさらに推進してください。</li> <li>教育産業のクラウドサービスを導入されましたが、生徒の感性を育てる視点を持ちながら取組みを進めてください。また、選択問題に留まらず、記述問題にも対応できるようにするなど、生徒の学力を高めるべく教育産業に要望を届けてみてください。</li> <li>進路関係の先生だけでなく、担任の先生方も進路知識をしっかりとって頂き、生徒の進路への気持ちを良い方向へ導いて頂きたいです。また、コース制のカリキュラムについては、生徒が自分の思っている進路に進んでいけるよう、工夫をしてください。</li> <li>国際交流委員会で大阪府立大学の留学生との交流も考えて頂き、変わりつつある世の中に柔軟に対応し、希望の進路を実現させるための発想の交流を深めて頂ければと思います。</li> <li>いよいよ「ページをめくる」時ですね。教員や生徒が育つ学校づくりを推進してください。</li> </ul> <p><b>【第 2 回 (11/8)】授業見学・授業改善に向けた提言、第 1 回生徒授業アンケート結果について、学校教育目標（自己評価）の進捗状況について、平成 30 年度使用教科用図書採択について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室の壁の掲示物等の教室整備に気を配ると生徒がより落ち着いて授業に取り組むと思います。</li> <li>教科書を利用していない生徒も見受けられました。教科書とプロジェクターの特長を生かして、効果的な授業をめざしてください。</li> <li>教育産業のクラウドサービスの最終目標である全体的な生徒の底上げに向けて、活用方法をさらに工夫してください。</li> <li>ICT 教育の実践的な研究をされており、時代の要請を担われています。発表の機会を設け、互いの人権を尊重する意識を持たせるピア・サポート研修やリーダー研修等で、人権意識や他文化理解といった「人との繋がりを考える」取り組みをさらに進めてください。</li> <li>「ICT の教育への取り入れ方」という問題について一步一步階段を上っておられます。新しい事をする時には同時に課題も発生しますが、分掌、学年、個々の先生方が協力し、その課題への向き合い方を考えておられます。ICT 利用率も大切ですが、ICT の活用を生徒の学力に繋げていく方法についてもさらに研究を進めてください。</li> <li>現状として、高校の特色をしっかりとみて進路を決めている中学生は少ないです。生徒に中学校訪問をさせ、クラブの後輩等に ICT を活用した授業の魅力等の先進的な取り組みを PR してもらえば、中学生に東百舌鳥高校をよりよく理解してもらえるのではないのでしょうか。また、近隣中学の先生方との授業見学等、交流の機会を増やせば、互いの学校理解に繋がります。根気よく進めてください。</li> </ul> <p><b>【第 3 回 (2/7)】平成 29 年度学校教育自己診断結果、1 年間のまとめ、提言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向け学校教育自己診断アンケート結果における「内容が分かりやすい授業が多い」と「子どもの心身の健康等も含めて、学校は保護者の相談に適切に対応してくれる」の 2 項目について、平成 28 年度と比べて肯定的回答が増加しているのは、学校と家庭の距離が近くなった結果であると感じます。</li> <li>授業アンケートの結果から先生方の授業評価が上がっている傾向が見られるのは素晴らしいと思います。教員のスキルが上がれば、生徒のスキルも上がります。各御家庭に協力していただきながら ICT 機器やクラッシーの有効活用、学びに向かう探求学習やピア・マインド・セットの研究開発、さらにアクティブ・ラーニングの実践とその評価について負担になり過ぎないように中期的目標達成に向けて御尽力ください。</li> <li>入学時の部活動の加入率は高い結果が見られますが、継続的に続ける生徒がやや少ないようです。入学後しばらくたってから気軽に入部できる仕組み等、部活動をさらに活性化させる工夫を考えてください。</li> <li>ルールとマナーは学校でも家庭でも教えなければならないことです。今後も学校への帰属意識を高め、学校のルールを守らせる生徒指導を家庭と情報共有しながら推進してください。</li> <li>現 1 年生は教育産業のクラウドサービス導入の最初の学年ですが、例えば読解や記述問題を増やし読書や考えを書いて表現する習慣をつけるといったように、上級生になるにつれてさらにステップアップ出来るよう上手くシステムを活用してください。</li> <li>本校の校則等については数値化と生え際による本校の頭髪指導等の必要性を理解していただいた。</li> </ul>

## 府立東百舌鳥高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
1 学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成	(1) 学びに対する意欲の向上 ア 仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会貢献出来る人材育成 イ 進路行事の積極的展開 ウ 言語活動の充実	(1) ア・「看護医療」専門コースでは看護医療系の上級学校への進学をめざし、看護師及び保育体験を実施する。 ・「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレット等 ICT の活用を推進する。 イ・大学見学や先輩の話聞く会、模擬授業等の体験学習を充実させる。 ・進路体験学習に保護者の参加を呼びかける。 ウ・ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。	(1) ア・50%以上の生徒が、看護師体験・保育体験に参加・タブレット等 ICT 活用取り組みの肯定率 90%以上（H28:84%←H27:86%←H26:69%） イ・進路行事に対する肯定率 75%以上（H28:69%←H27:71%←H26:59%） ウ・各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている肯定率 85%以上（H28:63%←H27:72%←H26:77%） ※H28・27・26年度の学校教育自己診断結果に基づき訂正	(1) ア・看護師体験・保育体験 →「看護医療」専門コースの生徒全員（63人）が参加し、目標以上。(◎) ・タブレット等 ICT 活用取り組みの肯定率 → 90% (H28:84%) で、目標以上 (◎) イ・進路行事に対する肯定率 → 68% (H28:69%) で、目標に至らず。次年度新設の「学習指導室」で改善を図る。(△) ウ・「各教科において、少人数指導を取入れるなど(グループワーク等) 指導方法の工夫・改善に努めている」の肯定的評価 → 73% (H28 ; 63%) と 10%上がり、 ・生徒の「授業内容がわかりやすく工夫している」の肯定的評価 → 62% (H28 ; 57%) と 5%上がり、総合的に判断して目標以上。(◎)	
	エ 英語のコミュニケーション能力の向上	エ・英検の受験を奨励する。 ・オーストラリア語学研修を実施する。 ・校内の案内板や教室の表示板など、多言語（日・英・中・韓等）の言語で対応できるよう改善する。	エ・英検受験者数 100人以上 ・語学研修参加率 5%以上（H28:4人←H27:7人←H26:7人）	エ・英検受験者数 100人以上 ・語学研修参加率 5%以上（H28:4人←H27:7人←H26:7人）	エ・1年生全員が英検 IBA テストを 3 回受験、英検受験者数は 109 人で、目標以上。(◎) ・語学研修参加者 8 人 (H28:4 人) で目標以上。(◎)
	(2) 「わかる授業」と「充実した授業」への授業改善 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。 イ 授業の「めあて」と「振り返り」を全教科で実施するとともに、校内外の優れた実践事例の研修を通し、指導法を研究し、共有を行う。 ウ 公開研究授業の実施	(2) ア・授業アンケート等を参考にして、各教科の課題と対応策を協議する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 イ・授業の「めあて」と「振り返り」を全教科で実施する。 ・校内外の優れた実践事例の研修を通し、指導法を研究し、共有を行う。 ウ・授業を公開する(保護者対象・教員相互)と共に、研究授業を積極的に実施する。	(2) ア・全教科、課題と対応策を提出 ・ペアワークやグループワークの実践 イ・「学びのポートフォリオ」の実施 ・実践事例研修を年 1 回実施 ウ・授業公開設定、他教員の授業見学、報告書の提出を年 2 回実施する。 ・授業満足度 60%以上（H28:57%←H27:58%←H26:49%）	(2) ア・全教科、課題と対応策を提出し、目標通り。(○) ・ペアワークやグループワークの実践 「少人数指導を取入れるなど(グループワーク等) 指導方法の工夫・改善に努めている」の肯定的評価 → 73% (H28 ; 63%) と 10%上がり目標以上。(◎) イ・「学びのポートフォリオ」の実施 「めあて、振り返りを取入れた授業」の取組み率 → 86% (H28 ; 78%) と 8%上がり目標以上。(◎) ・実践事例研修を年 1 回実施した。(○) ウ・授業公開設定、他教員の授業見学、報告書の提出を年 2 回実施した。(○) ・授業満足度 → 62% (H28:57%) で 5%上がり、目標以上。(◎) ・「教育実践に役立つ校内研修が計画的に実施されている」の肯定的評価 → 84% (H28:53%) と前年比 31%上がり、目標以上。(◎)	
(3) 個別指導の充実と自己学習の支援 ア 支援の必要な生徒実態の把握 イ 進学講習の実施と自学自習のための支援体制の整備 ウ 外部模試利用の効果的な活用を推進する。	(3) ア・高校生活支援カードを活用し、適切な指導・支援の充実を図る。 イ・全学年を通じて講習、補習に取り組み、生徒の学力向上に努める。 ・定期考査前や長期休業中において、自学自習のため支援体制を整備する。 ・大阪府立大学ボランティアセンターと連携して「マイスタディー・サポート講座」のサポーターを依頼する。 ウ・3年間を見通した、「進路マップ」を策定し、時期に応じた効果的な外部模試を受験させることで、ミスマッチのない進路実現を図る。 ・PTA総会や学年別保護者進路説明会等で、効果的な外部模試の活用を説明していく。 ・「学年診断サポート」を活用して、家庭学習時間の増加を図る。	(3) ア・共通理解のための研修を年 2 回実施 イ・早朝、放課後、土曜、夏季、センター講習の申込者数のべ 500人以上（H28:385人←H27:456人） ・「マイスタディー・サポート講座」を 3 回開催（H28:1年 17人、2年 159人、計 176人） ・進路情報提供に関する肯定率 85%以上（H28:78%←H27:82%←H26:78%） ウ・各学年ともに外部模試の受験奨励<1年生：実力診断テスト、2年生：実力判定テスト・外部模試、3年生：実力判定テスト・外部模試（マーク式・記述式）> ・家庭学習時間の増加（学年+1時間を目標）	(3) ア・共通理解のための研修を年 2 回実施した。(○) イ・早朝、放課後、土曜、夏季、センター講習の申込者数 → のべ 449 人 (H28:385 人) 前年比 17%増で、目標以上。(◎) ※平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価「自己評価」記載（のべ 385 人参加）に基づき訂正 ・「マイスタディー・サポート講座」 → 4 回開催し、のべ 355 人 (1 年 109 人、2 年 135 人、3 年 111 人) の参加で、目標以上 (◎) ・H28 : 176 人 (1 年 17 人、2 年 159 人) ・進路情報提供に関する肯定率 → 85% (H28:78%) で 7%上がり、目標以上。(◎) ウ・外部模試受験を奨励し、2 年生 291 人 (H28:188 人)、3 年生 342 人 (H28:255 人) で、総計 633 人 (H28:443 人) 前年比 43%増なので目標以上。(◎) ・学力生活実態調査の家庭学習時間が、1 年生 1h16m (H28:49m)、2 年生 21m (H28:19m)、3 年生 37m (H28:28m) で、前年比のべ 40%増なので目標以上。(◎)		

## 府立東百舌鳥高等学校

<p>2 自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成</p>	<p>(1)規範意識の向上 ア 通学マナーの向上 イ あいさつ運動の実施  ウ 頭髪・服装・遅刻指導の推進  エ スマホに関する指導を実施  (2) 自主的活動ができる生徒集団の育成 ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動の活性化  イ 「学校まるごと美術館」構想の下、生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。  ウ 図書館利用・読書活動の充実を推進する。  エ 生徒による校内外の美化活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・毎朝の立ち番指導及び通学マナー指導を継続する。 イ・あいさつ運動の実施とともに、あいさつ通り(1階)を作り、挨拶を励行する。  ウ・頭髪・服装・遅刻指導を推進する。  エ・1年生に対して、「スマートフォンによる人権侵害」についての取組を推進する。 ・外部の人材派遣による人権研修の開催  (2) ア・生徒会行事を生徒が自主的に運営する。 ・リーダー研修、ピアサポート研修の充実 ・中学生対象の学校説明会を生徒(生徒会役員・部活動部員)が運営する。 ・中学生招待「東百舌鳥杯(シュライク・カップ)」大会の実施(バスケットボール・サッカー) ・「校歌」のメロディーチャイムを導入することで帰属意識を高める。 ・全国大会出場に向けた支援  イ・部活動の発表の機会や場をつくり、生徒会が運営する。(睦月祭、及び校内展示等) ・各所に常時展示スペースを確保する。  ・新入生に入部を勧める冊子を配付する。  ウ・「第3次大阪府子ども読書活動推進計画(H28.3策定)」の趣旨を踏まえ、子どもへの読み聞かせの機会や、子どもが読みたいと思う魅力的な本と出会う機会の拡大に努め、発達段階に応じた子どもの読書環境の充実を図る。 ・ビブリオバトル(書評合戦)等の読書活動の取り組みを推進する。  エ・地域美化活動や東百舌鳥「花プロジェクト」、東百舌鳥「ピカピカ隊」を展開する。 ・校内清掃活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施 イ・自己診断におけるあいさつ肯定率 80%以上 (H28:65%←H27:82%←H26:89%)  ウ・遅刻総数前年度比 10%減 (H28:4601回←H27:5829回と激減←H26:9734回) エ・スマホの指導を年3回以上実施  (2) ア・各行事後のアンケートにおける満足度 85%以上 (H28:80%←H27:81%←H26:83%) ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回実施 ・中学生招待「東百舌鳥杯」大会の実施 &lt;男女バスケットボール(H27:16校参加)&gt;、 &lt;サッカー(H27:15校23チーム参加)&gt;  イ・部活動の活性化に対する肯定率 70%以上 (H28:66%←H27:65%←H26:65%) ・新入生の部活動加入率 60%以上 (H28:57%←H27:54%←H26:57%)  ウ・図書館来館者数の増加 (H28:1749人←H27:2372人) ・生徒向け貸出冊数の増加 (H28:1359冊←H27:1367冊)  エ・「花プロジェクト」の参加 (H28:のべ21人←H27:のべ43人) ・ピカピカ隊の参加 (H27:のべ250人)</p>	<p>(1) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施した。(○) イ・自己診断におけるあいさつ肯定率 → 73% (H28:65%) で、概ね目標通り。(○) ・来校者からは生徒が挨拶してくれて気持ちが良いと言っていたけりようになった。校内にもさらに広げていきたい。 ウ・12月末現在の遅刻総数は3120回 → 前年比24%減 (H28; 4128回) で、目標以上。(◎) エ・スマホの指導を年4回実施した。(○)  (2) ア・各行事後のアンケートにおける満足度 → 84% (H28:80%) で、概ね目標通り。(○)  ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回実施した。(○)  ・中学生招待「東百舌鳥杯」大会の実施 男女バスケットボール 16校参加、サッカー12校参加で、概ね目標通り。(○)  イ・部活動の活性化に対する肯定率 → 68% (H28:66%) で2%上がり、概ね目標通り。(○)  ・新入生の部活動加入率 → 71%と、前年度比24%増 (H28:57%) で、目標以上。(◎)  ウ・図書館来館者数 → 1月23日現在、2278人 (H28:1686人) で前年度比35%増で、目標以上。(◎) ・生徒向け貸出冊数 → 1月16日現在1379冊で、前年度 (H28: 1359冊) を越え、目標以上。(◎)  エ・「花プロジェクト」は、1回目が雨天中止、2回目の参加者は15人 (H28:のべ21人) で、概ね目標通り。(○) ・ピカピカ隊の参加者 → 120名 (H27:のべ250人) で、目標に達していない(△)</p>
---------------------------------	---	---	---	---

<p style="text-align: center;">3 ICT 機器 の 活用</p>	<p>(1) ICT 機器を活用した校務の効率化 ア ICT 教育推進室の設置（新分掌として位置づけ） イ 校務支援システムのサポート、HP更新（ブログ更新）のサポート、各種トラブルの対応、機器の管理</p> <p>(2) ICT 機器を活用した授業を推進 ア タブレット型PCや電子黒板等を活用</p> <p>イ フューチャールームの活用</p> <p>ウ 教職員の ICT 活用力の向上</p> <p>(3)「ICT を活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価」（パナソニック教育財団特別研究指定校）に続く「評価方法」の調査研究を行う。 ア 一人一台のタブレット端末（生徒所有のスマホも含む）を活用し、多様な学習成果の評価手法に関する調査研究を行う。</p> <p>イ 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。</p>	<p>(1) ア・ICT 教育推進室を設置することで、ICT を活用した授業の支援を行う。 イ 校務支援システムに関するサポート等を通して、各分掌や学年間の連携を円滑に行う。</p> <p>(2) ア・タブレット型PCを始めとした ICT 機器を使った研究授業を行う。また、その研究成果を他校に伝える。</p> <p>イ・フューチャールーム、アクティブラーニングルーム、マルチメディアルームを活用して ICT 活用力の向上を図る。</p> <p>・授業・特別活動・職員会議・研修報告会で利用 ウ・全ての教科において、ICT 機器を活用した授業ができる環境を普通教室以外の全教室にも順次整備していく。 ・ICT 活用力向上の研修会を開催する。</p> <p>(3) ア・一人1台のタブレット端末（生徒所有のスマホも含む）を活用し、オンラインアプリによるe-ポートフォリオ等の評価手法を研究する。 ・生徒一人ひとりが「主体的で対話的な深い学び」を持って多様な人々と協力して問題を発見し、解を見出していくアクティブ・ラーニングの充実を推奨していく。</p> <p>イ・資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。 ・アクティブ・ラーニング等を活用した学習において、評価の妥当性・信頼性を高めるための研究を行う。</p>	<p>(1) ア・各分掌や各学年間の連携に関する肯定率 55%以上（H28:48%←H27:62%←H26:48%）</p> <p>(2) ア・ICT 機器を使った研究授業を年6回以上実施 ・ICT 機器を使った授業での活用率 90%以上維持（H28:95%←H27:94%←H26:69%） イ・授業、職員会議、研修報告会、PTA 活動等で、年50回以上利用</p> <p>ウ・研修会を年2回以上開催</p> <p>(3) ア・パフォーマンス評価やルーブリックを取り入れた評価手法を研究し、実践していく。 ・スマホでの問題作成ツール等で小テストを実施</p> <p>イ・クラウドサービスで、授業の「振り返り」を入力し、e-ポートフォリオとして活用 ・教科別毎の観点別シラバスを活用し、研究授業を2回行い、授業アンケートの平均ポイント0.05あげる。（H28:3.04←H27:3.06←H26:3.04）</p>	<p>(1) ・ストレスチェック職場評価において、人間関係・裁量・適正度・働き甲斐・上司支援・職場支援及び健康総合リスクの値が平均値より低く、良い結果であった。（◎）</p> <p>ア・各分掌や各学年間の連携に関する肯定率 → 57%（H28:48%）と9%上がり、目標以上。（◎）</p> <p>(2) ア・ICT 機器を使った研究授業を年19回実施で、目標以上。（◎） ・授業での ICT 活用率 → 96%（H28:95%）と高水準を維持。 ・生徒の ICT 活用取り組みの肯定率 → 90%（H28:84%）で、目標以上。（◎）</p> <p>イ・平成23年度 校長マネジメント推進事業中期計画推進費で整備していただいたフューチャールーム等の有効活用として、授業、職員会議、研修報告会、PTA 活動等で、年85回（1月16日現在）利用し、目標以上。（◎） ウ・教職員全員悉皆のメルマガ・メール送信研修も含め、研修会を年14回開催したので、目標以上。（◎）</p> <p>(3) ア・パフォーマンス評価やルーブリックを取り入れた評価手法を研究し、実践した。（○） ・スマホでの問題作成ツール等で小テストを実施した。（○） ・本校の「ICT を活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価法」の学校視察に、全国から35校の訪問を受け、大阪府立学校の先進的な取組みを大いに広めることができ、目標以上。（◎） ・「アクティブ・ラーニングの要素を取入れた授業」の取組み率 → 86%（H28:78%）と8%上がり、目標以上。（◎） ・近隣中学校教員対象に、本校での ICT を活用した授業見学及び教員向け研修会を実施した。本校がプラットフォームになるような中高連携事業を推進していきたい。（◎）</p> <p>イ・教科情報の授業においてクラウドサービスで、授業の「振り返り」を入力し、e-ポートフォリオとして活用した。（○） ・本校の「e-ポートフォリオ及びルーブリック評価を活用したアクティブラーニングの評価法」の学校視察に、全国から10校の訪問を受け、大阪府立学校の先進的な取組みを大いに広めることができ、目標以上。（◎）※9校は、「3(3)ア」の35校の内数である。 ・教科別毎の観点別シラバスを活用し、研究授業を2回行い、授業アンケートの平均ポイントを0.05上げた。H29年度:3.09（H28:3.04）。（○）</p>
--	--	--	---	--

## 府立東百舌鳥高等学校

<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 開かれた学校づくり</p> <p>ア 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取り組みをアピールする。</p> <p>イ ブログを活用した情報を発信</p> <p>ウ 学校メールマガジン(モズマガ)の利用拡大</p> <p>(2) 地域と連携した事業の展開</p> <p>ア 「子育てひろば・東もず」との交流</p> <p>イ 堺市、地域自治会、地域中学・大学との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア・オープンスクールや外部主催の学校説明会にも積極的に参加し、本校の特色ある取り組みをアピールする。</p> <p>イ・校長室ブログ・生徒会ブログ・部活動ブログ・図書館ブログの積極的な更新を推進する。</p> <p>ウ・各学年の様子をメールマガジン(モズマガ)として発信する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・一昨年度9月に校外へ退去した「子育てひろば・東もず」との連携を一層進める。</p> <p>イ・中区役所自治推進課のSHS(精華高・東百舌鳥高・商大堺高)なかじよまちづくりミーティングに参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花プロジェクト」を堺市公園協会と連携して実施する。</li> <li>・地域との交流を実施し、文化の発信地としての学校の特色「サカイからセカイへ」をアピールする。</li> <li>・地域の方を対象に「デジタルカメラ講習会」を実施</li> <li>・地域の方を対象に「歴史探訪」を実施</li> <li>・毎朝の立ち番指導の際、地域の中学生にも声を掛ける。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・6月:第1回オープンスクール、(H28:中学生297人、保護者53人、計350人)</p> <p>7月:大阪府公立高校進学フェア(173人参加、67件の相談)</p> <p>8月:旧4学区合同説明会(461人参加、30件の相談)</p> <p>9月:私学塾進学相談会(45件の相談)</p> <p>10月:中学生体験入学(中学生178人、保護者35人参加、7件の相談)</p> <p>10月:泉大津公立高校進学説明会(13件の相談)</p> <p>12月:第2回オープンスクール(中学生272人、保護者57人、4件の相談)</p> <p>イ・各ブログの更新頻度をあげる</p> <p>ウ・2週に1回の割で発信</p> <p>(2)</p> <p>ア・交流参加生徒のべ200人以上</p> <p>イ・中区安全安心まちづくり事業に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中区民フェスタに参加</li> <li>・デジタルカメラ講習・歴史探訪の参加者を増やす。</li> <li>・フューチャールーム等の利用者数年間100人以上</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・6月:第1回オープンスクール参加者数484人(中学生327人、保護者112人)、前年比;134人増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月:大阪府公立高校進学フェア参加者数263人、前年比;90人増</li> <li>・8月:旧4学区合同説明会参加者数502人、前年比;41人増</li> <li>・9月:私学塾進学相談会相談件数50件、前年比;5件増</li> <li>・11月:中学生体験入学参加者数161人、前年比;17人減</li> <li>・10月:泉大津公立高校進学説明会相談件数17件、前年比;4件増</li> <li>・12月:第2回オープンスクール参加者数290人(中学生221人、保護者69人)、前年比;39人減</li> <li>・のべ参加人数1767人(H28;1584人)、前年比12%増で、目標以上。(◎)</li> <li>・公立中学校長会第2回進路希望調査で競争率1.26(H28;第2回1.19)</li> </ul> <p>イ・校長ブログは、1月22日現在、226日・計324回の更新、計38,401アクセス(1日平均129アクセス)で、目標以上(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログで情報を積極的に発信し、本校説明会のべ参加人数1767人(H28;1584人)、前年比12%増で、目標以上。(◎)</li> <li>・進路ブログ12回・生徒会ブログ6回・部活動ブログ7回・図書館ブログ3回・その他17回の更新で概ね目標通り。(○)</li> </ul> <p>ウ・毎週1回の割で発信し、目標以上。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(保護者)「メールマガジンは役に立っている」の肯定的評価は87%。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・交流参加生徒のべ214人で、目標以上。(◎)</p> <p>イ・生徒が中区・土塔町他の地域の行事に積極的に参加。地元自治会長から多大な評価を受け、目標以上(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかじよまちづくりミーティングに生徒会執行部5名が参加</li> <li>・中区民フェスタにダンス部が参加</li> <li>・中区成人式にダンス部が参加</li> <li>・堺市長、地元選出国會議員・府議會議員、自治会長が参列した地域の行事に、ダンス部が初出演し好評を得た。</li> <li>・吹奏楽部が地域の福祉施設を慰問演奏。</li> <li>・デジタルカメラ講習を6回実施・6月に10人の参加を得て歴史探訪を実施。(○)</li> <li>・フューチャールーム等の利用者数年間167人で、概ね目標通り。(○)</li> </ul>
--	--	--	---	---

## 府立東百舌鳥高等学校

<p style="text-align: center;">5</p> <p style="text-align: center;">伝統や文化に対する理解はもとより、 習慣の違いを尊重する精神の育成 文化や</p>	<p>(1) 「自他敬愛」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。 ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築く 「自他敬愛」の精神の育成 イ 「ピア・サポート」活動の拡大充実</p> <p>(2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点 ア ICT 機器を活用した問題解決能力育成の取り組みの推進 イ アクティブ・ラーニングの評価方法の工夫</p> <p>(3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方についての提言をアジア諸国へ発信 ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進</p> <p>イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施</p>	<p>(1) 3つのエリア「歴史・街づくり」「ピア（多文化共生）・関係づくり」「伝統文化・モノづくり」を柱に、世界を知り、日本を知る。 ア・同じエリアの仲間、後輩、留学生メンター、他国の学生の出会い、交流を行い、協力し合って問題解決を行っていく。 ・各活動の節目において成果物を作成する。 イ・「ピア・サポート」で培った、関係づくりを生かし、多文化共生の取り組みを推進する。</p> <p>(2) 他国の学生とフィールドワークやスタディツアーを通して、国際交流協働学習を行うことにより、新しい価値観や多角的な物事の捉え方を身につける。 ア・ICT 機器を活用した他国との交流を進める。</p> <p>イ・アクティブ・ラーニングの評価方法を行うため、「e-Portfolio」システムを導入する。</p> <p>(3) 実体験から学び、身につけた知識を他者との交流により深化させ、提言をまとめていく。 ア・留学生との交流をはじめとした協働学習、スタディツアーなどの国際交流活動を通して、国際的な視点をもって成果物をまとめていく。</p> <p>イ・エリアごとに、堺の街づくり、伝統文化、多文化共生の取り組みを、国際的な視点でとらえ、提言を作成する。</p>	<p>(1) ア・ポートフォリオによるチーム内での相互評価 イ・エリア合同成果交流会や提言作成</p> <p>(2) ア・ICT 機器を使った授業の取り組み肯定率 90%以上 (H28:84%←H27:86%←H26:69%)</p> <p>イ・ポートフォリオによるチーム内での相互評価</p> <p>(3) ア・国際的な発表の場での発表回数を増やす。</p> <p>イ・国際意識調査の結果の変化(各学年ごとのプレポスト調査)</p>	<p>(1)・(3)ア・イ に関しては、次の※1)～3)の取り組みを進めていく。</p> <p>※1) 来年度、「総合的な探究の時間」に向けた探究学習の取り組みを進めるなかで、「世界を知り、日本を知る」学びを創っていく。</p> <p>※2) 国立教育政策研究所「平成30年度教育課程研究指定校事業」【公募課題1】(総合的な学習の時間)に応募。 H30年度 学校経営推進費活用による「探究学習」の研究・開発に応募予定。</p> <p>※3) 3つのエリアを「学びに向かう探究学習」で、国連が採択した「持続可能な開発目標」であるSDGsに発展的に変更し、SDGsに基づいて生徒が興味のある分野を深く調べ、仮説を立て、検証し、意見としてまとめて表現する学習活動を推進する。</p> <p>(1) ア・イ・3つのエリアの取り組みはできていない。(△)</p> <p>(2) ア・授業での ICT 活用率 → 96% (H28:95%) と高水準を維持、 ・生徒の ICT 活用取り組みの肯定率 → 90% (H28:84%) で、目標以上。(◎)</p> <p>イ・教科「情報」の授業で、ポートフォリオによるチーム内での相互評価を行った。(○) 来年度は、他教科にも順次拡げていきたい。</p> <p>(3) ア・国際的な場での発表はできなかったが(△)、大阪府立大学の留学生との交流(1年生・2月8日)と、JICA 研究員との交流(2年生・1月29日)を行い、異なる文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる力をはぐくんだ。(○) ・大阪府国際化戦略実行委員会のアクションプログラム「2017 グローバル体験プログラム」(1月6日)に31人(1年3人、2年20人、3年8人)が参加。(◎)</p> <p>イ・「Aria Studies (AS)」及び国際意識調査は実施できていない。(△)</p>
---	--	---	---	---